

多文化共生を再考する：

『多言語アイデンティティを肯定できるコミュニティに向けて¹⁾』

Rethinking Multicultural 'Kyosei' in Japan:

Towards a Community which Accommodates Multilingual Identities

1. 研究概要と目的

本研究は国際基督教大学教育研究所の研究者としての筆者が、2012年度から科学研究費助成を受けることになったプロジェクトであり、2012年度の初年度は国際基督教大学内で研究を進めてきた。2013年度からは筆者の本務校となった立教大学大学院と国際基督教大学の両校で研究を遂行している。本年度はプロジェクトの2年目にあたる。

本研究は、藤田ラウンドの2007年度の調査をたたき台としている。新宿区は、新宿区に転入してきた、外国につながる、幼稚園から中学校まで外国籍の児童に対して、1) 新宿区による日本語の初期指導、2) 東京都と新宿区の教育委員会による日本語学級・日本語教室、3) 委託されたNPOグループによる放課後の日本語サポートなどの日本語学習支援を行っている(藤田ラウンド, 2008, 2010)。ここでは、ホスト社会となる新宿区での学習環境について、聞きとりやインタビューを重ね、授業参加などのフィールドワークを基に主に2007年-2008年の現状を分析した。本研究では、この調査を踏まえて、新宿区の小学校2校の日本語学級・日本語教室で行われた授業をさらに質的に分析し、日本語教育の指導の内容と同時に、授業の中でどのような学びが起きていたかを考察する。また、当事者のバイリンガル・マルチリンガルとして育ったかつての「子ども」にインタビューし、子どもたちの側のナラティブもまとめる予定である。研究の基盤として、新宿区のJSLの子どもの教育を中心に据えるが、1) 少数言語話者としての子どものアイデンティティに働きかける授業(沖縄県宮古島市)、2) カトリック教会でのスペイン語母語教室(東京都内)、3) 母語と母文化としての日本語(中南米における日系移住地)も比較・相対化の視座として、共同研究を遂行する。

母語・母文化を保ちながらも、移動をした子どもたちが社会言語の日本語を習得することは、子ども個人、家族、地域コミュニティにとっても重要な課題であろう。本研究は、バイリンガル・マルチリンガルとして育つ子どもへの教育に集約させながらも、社会・歴史的なマクロの要素と個人の言語習得とアイデンティティといったミクロの要素を交差させ、多文化共生を捉えなおし、現状の課題の理解につながる一助となる研究を目指すものである。

2. 中間報告：2012年4月から2013年10月までの活動記録

本研究は、質的分析を行うことから、日本語教育現場での参与観察、ビデオ録画、教師や学校関係者へのインタビューを中心にデータを集め、文字お越しをし、トランスクリプションを作成し、分析をする。しかし、同時にフィールド調査の中では、アクションリサーチを志向し、研究対象となる現場や対象者と協働をしながら、「多文化共生」を再考する作業も行う。また、「多文化共生」を問い直すアプローチとして映像を切り口に用いることを考案した。従って、研究プロジェクト前半の活動は、映像撮影、編集の技術習得のためのワークショップを行い、フィールド調査の報告や多文化交流のためのウェブサイト構築を行った。

2. 1 研究に関わる人がビデオ映像・編集技術を身につけるためのワークショップ開催

佐藤博昭氏(映像作家、日本大学芸術学部映画学科講師)と服部勝孝氏(映像アーティスト、日本工学院専門学校講師)を講師に迎え、「Hands on ビデオワークショップ」をこれまでに6回実施した。本科研に関わる共同研究者、研究協力者など、合計19名の参加者があった。内容は以下のとおりである。

第1回「撮影した映像をユーチューブにアップロードするまでを目指す」2012年6月6日

第2回「インタビューの撮影を試みる」2012年7月18日

第3回「ステップアップエクササイズ(撮影篇)」2012年9月26日

第4回「ステップアップエクササイズ(編集篇)」2012年10月24日

第5回「楽しいビデオワークショップ：DSLRの基本と映像編集実習」2013年6月3日

第6回「iMovieでビデオの基本編集とウェブサイトにアップロードする方法」2013年9月27日

2. 2 フィールド調査

(1) 新宿区でバイリンガルとなった子どもの追跡調査

2013年11月16-19日 韓国, 京畿道にて アクションリサーチ・インタビュー調査

(2) 沖縄県宮古島市での調査 (共同研究者: 善元幸夫)

2012年6月25日 宮古島の小学校へ出前授業と先生方との懇談会

2013年8月16日 宮古島市内の小・中学校教員のための研修会

(3) カトリック教会でのスペイン語母語教室 (共同研究者: Maria Dolores Pérez Murillo, Ph. D.)

2013年4月開始, 現在継続中

2. 3 報告・多文化交流のためのウェブサイト構築

ウェブサイトは、藤田ラウンドを含む3名のチームで運営し、専門家の方々からの協力を得て2013年に形にした。手始めに、南米の日系移住地で日本語教育を行う教師6名(ブラジル, パラグアイ), 研究助手(大久保), 元ICU留学生(リトアニア)など15名の国内外の研究協力者による居住地で経験している異文化に関わる報告をブログ形式で行うことにした。この内容は今後、中間報告書、最終報告書にまとめる予定である。

また、ここでは研究協力者たちがウェブサイト上での多文化交流を実践するという試みも入っている。多文化共生をプロモートするための、実践方法の模索として捉えている。

ウェブサイトアドレス: Live Multilingually <http://multilingually.jp>

3. 終わりに

本研究では、「多文化共生」の理念だけではなく、具体的に「コミュニティ」の中でどのように「多文化共生」が可能になるのか、また、その実践についても追求したいと考えている。

参考文献:

藤田ラウンド幸世 (2008) 「第7章: 新宿区で学びマルチリンガルとなる子どもたち」川村千鶴子編著『「移民国家」日本と多文化共生論』明石書店 pp.191-228.

藤田ラウンド幸世 (2010) 「新宿区で学びバイリンガルとなる子どもたち——第二言語として日本語を学ぶ子どもへの日本語初期指導」, *Educational Studies*, International Christian University, 52, 179-189.

注

1. 平成24年度～平成26年度科学研究費助成事業, 基盤研究(C) 研究課題番号: 24520586
2. 現所属: 立教大学大学院異文化コミュニケーション研究科

藤田 ラウンド 幸世²
FUJITA-ROUND, Sachiyo